

江府中

叙



笑竄之岳高峻勝際甲於天
不絕頂接天盛夏封雪故古
今画家無不寫之以供展翫
者其間名於世者亦不復鮮
矣或圖春景或雪秋景從某

山而望者從某野而觀在帶
月雲若帶風雨者帶朝霞者
帶暮靄者無不具體而出者
唯是蒞階之挂逸天也各地
異觀四時殊景朝暉夕陰烟
雲出沒容態多遷奇觀世窮

在畫家亦致意于此古亭主人
君錫風流佳致眾技兼善畫
居其一焉壯好遠游足跡半
天下以故每觀其畫多景於
名畫即就揮毫為漸次累功
殆盈百數比之諸家豈惟每

體有美趣所謂該象未嘗因
及者亦如取諸囊底至善尺錫
所為專在於師造化而已今也
悉命之剗剗氏并取古今所
寫其殊絕而岑意者摹擬以
雜其間因諸常世作者各就

其因而題詠之嗚呼俾覽者
不出戶庭烟雲山色彷彿在
於几席間無濟緣之具而有
登臨之樂豈不愉快乎其或
欲圖寫其宏勝景者取途於
此亦以難為之者是為序

丁亥秋日

柳洲田謙之題



枯木寒山
遠水孤舟
一川秋意
萬古清風



高き木一木も葉は秋ハ
う程の大和乃強人な
よりてうれしの氣色も
山農をく
帯ふにいと故あり

東都乃隱士河村居士書に
遊心画よりその色も筆も風雅の
くみられ、武藏呼ぶ雲霞
始りて四季の海より杖鼓を
きく夕見坂の馬場と見えぬ山の
風景を寫す西より好しとら

わけ甲斐の縁農家やうきいざり
とて我々金山のこれよりい
ちと宿の遠く然れ晴天乃
七十二芙蓉を越く川に
色にみえたるは僕も此を
意知りてこれとらるる

又似、李依之なり此序と
わへ高辞せん

芙蓉峯隱士最松堂主書



百留士序

和歌、俳句、繪、字、一、世、を、ま、る、る、名、を、多、く、
中、也、を、最、も、ぬ、書、寫、の、か、り、き、人、の、國、海、を、ま、り、て
名、を、百、留、士、と、稱、ふ、を、也、と、い、ふ、多、く、是、指、法、人、由、き、
し、此、れ、を、人、海、合、せ、る、名、画、を、又、さ、る、か、り、書、寫、
繪、と、い、ふ、代、に、は、さ、る、と、世、探、幽、名、の、中、に、ま、る、
去、秋、の、早、秋、く、乃、新、を、あ、ら、め、い、ら、る、ゆ、に、な、れ、

後の画工ありくもあらずともその地の川に於て
わきまを以てしるすなり其の画に人々あつて
その家此法則のまにあらんや其の画をまかす
わきま性質のまにあらんや其の画をまかす
わきまは其のまにあらんや其の画をまかす
其の画をまかすなり其のまにあらんや其の
まにあらんや其のまにあらんや其のまに
あらんや其のまにあらんや其のまにあらんや

はくちうちうちの極点を以てしるすなり
その画に於ては其のまにあらんや其の
まにあらんや其のまにあらんや其のまに
あらんや其のまにあらんや其のまにあらんや
其のまにあらんや其のまにあらんや其の
まにあらんや其のまにあらんや其のまに
あらんや其のまにあらんや其のまにあらんや

くる侍のくると南さきへ一帳とあてあさふと
 門をぬきしるべしと云ふなりいゆりし時
 して月影の風情ふと云ふなりいゆりし時
 成るまゝ百面士と名付かりき世に消えぬ業れ白
 ゆき時をぬきとあてひいかにそのなり
 内和曰丁酉の月半白菊測の約後休香のまゝ
 手とりぬ

百面士

月半

武藏野



中

つる

やうな尾草や

秋の富士

雅村主

素齋

外



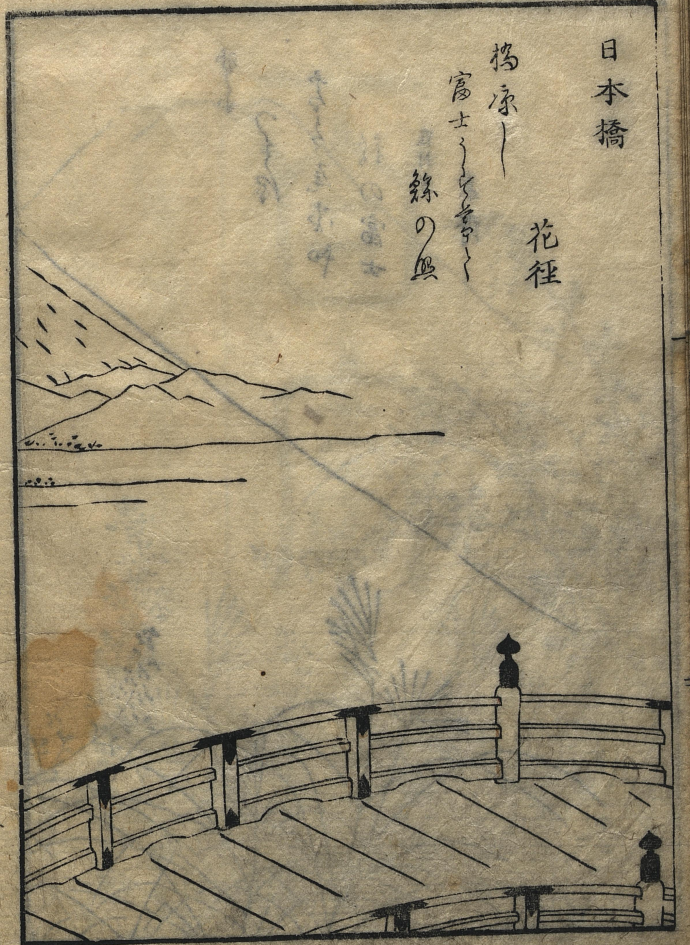
日本橋

花徑

楊涼

富士

糸の



駿河町

富士原

裾野小谷

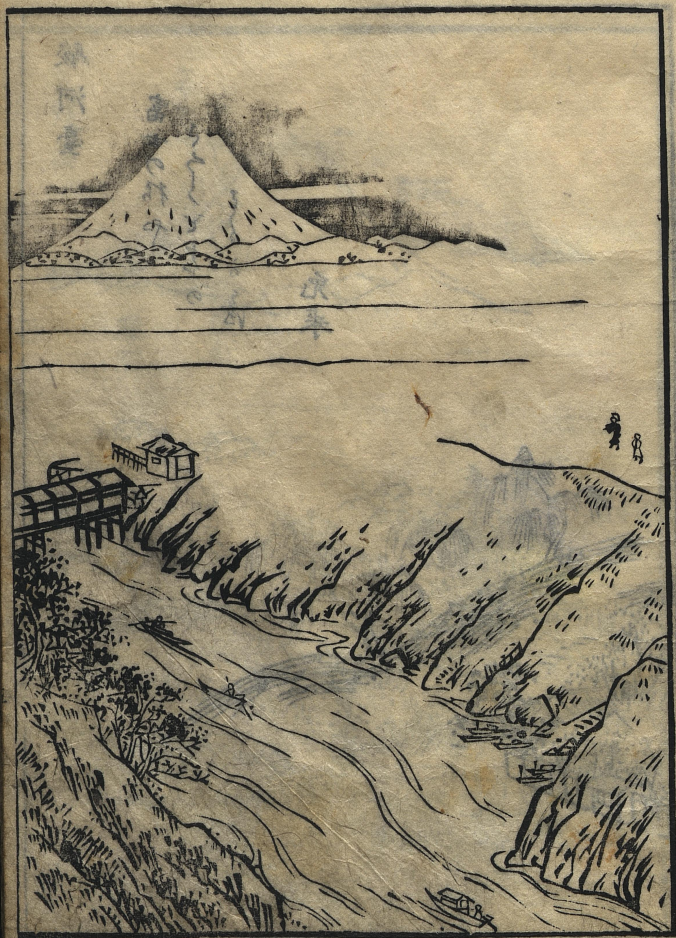
鳳城下

朱雁



富士原



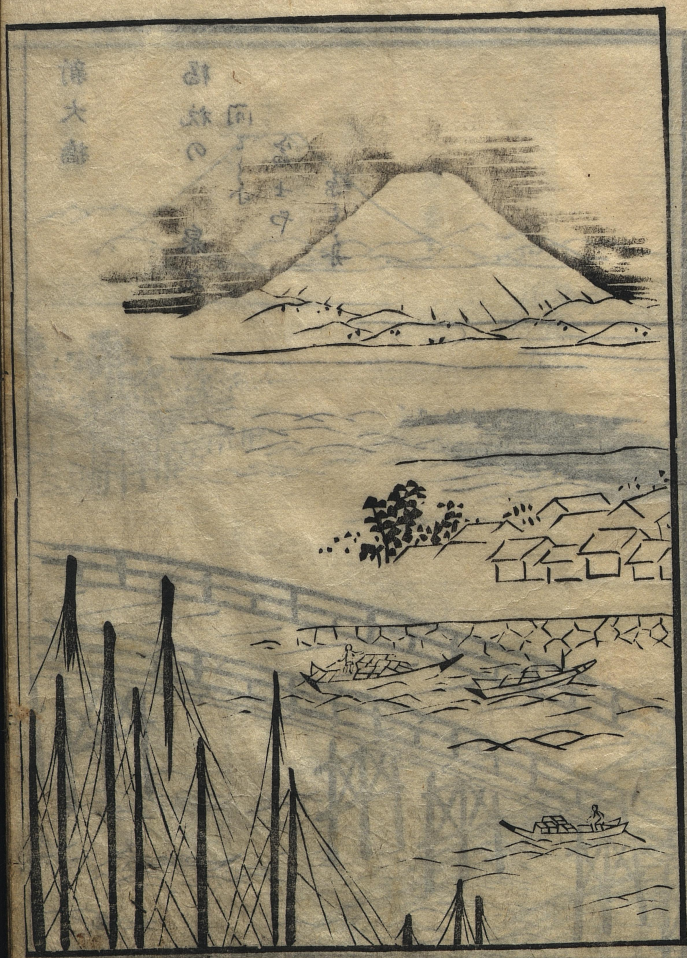


駿河臺

富士の根や
さうとちの
もろの

元来







新大橋

橋杭の 泉之

間こゝ小

富士や

源いふ舟







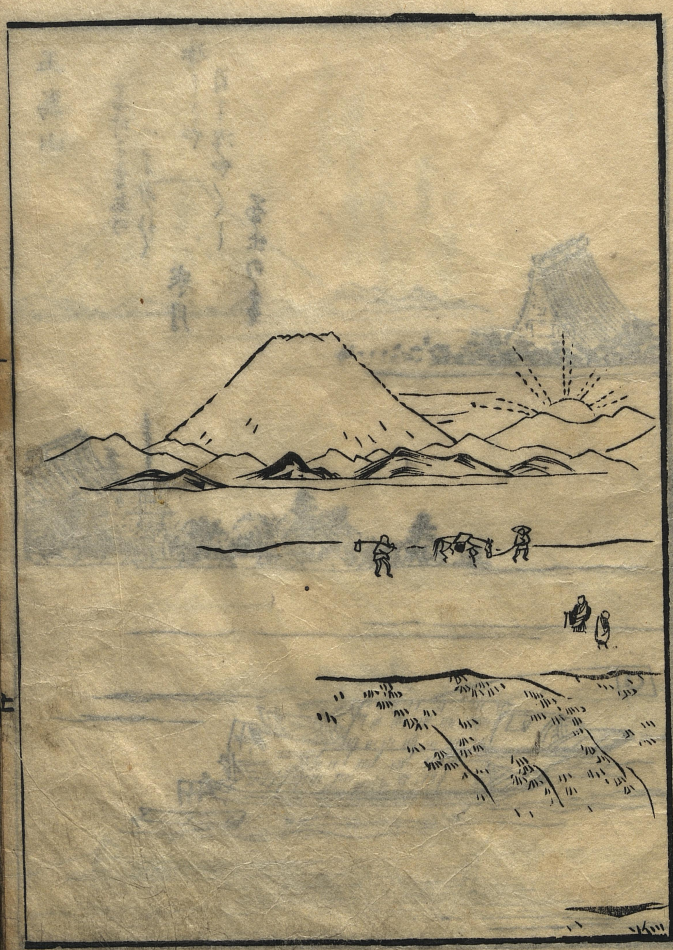
三圍山

富士と圖す

うけとけの

大平の

春江

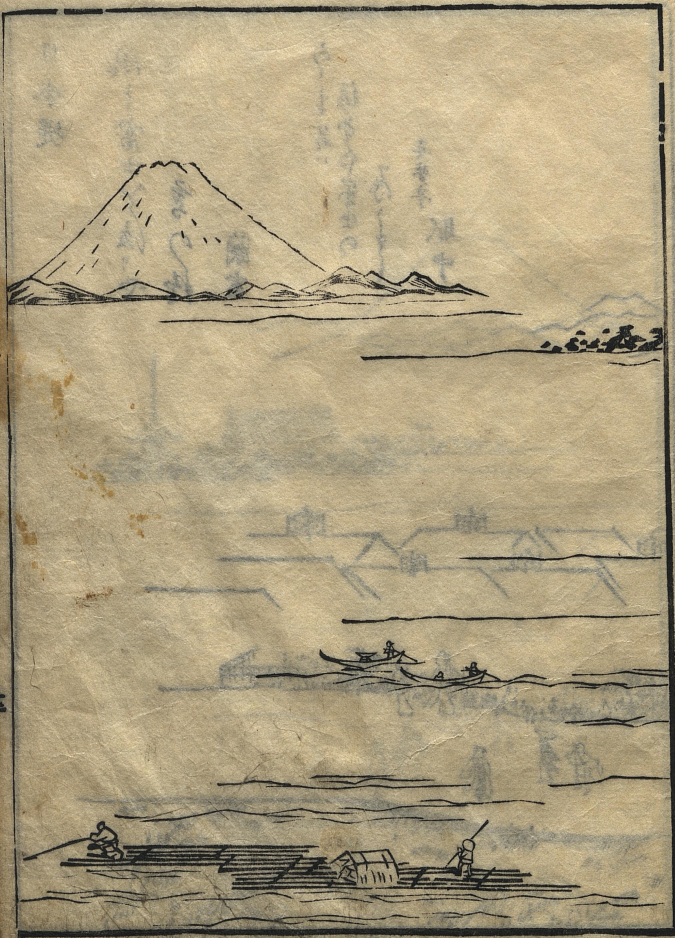
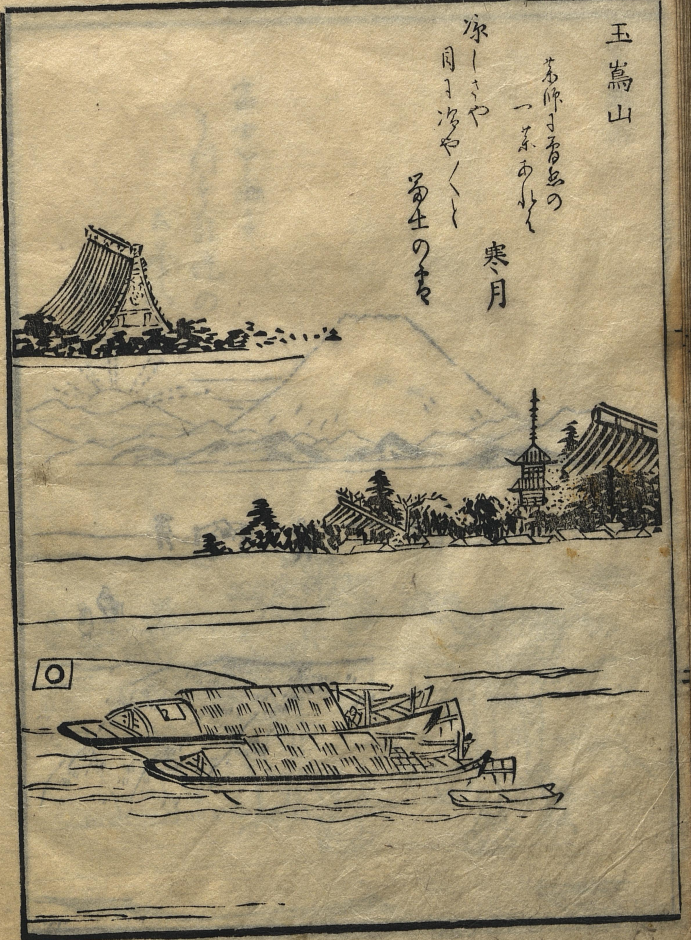


玉島山

お前さるゑの
一葉のゆく

寒月

氷さや
月さや
あまのま



日本堤

風も富士も後や

雲の影

蘭室

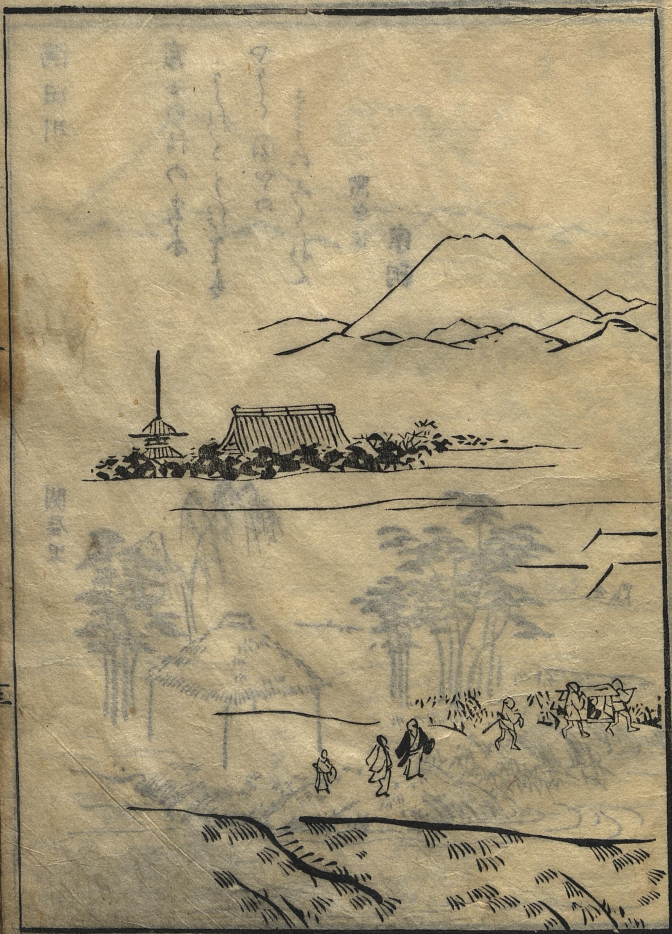
うしろ名

後や富士の

影

喜夢亭

眠中



隅田川

富士の裾のちふ

ふしうはな

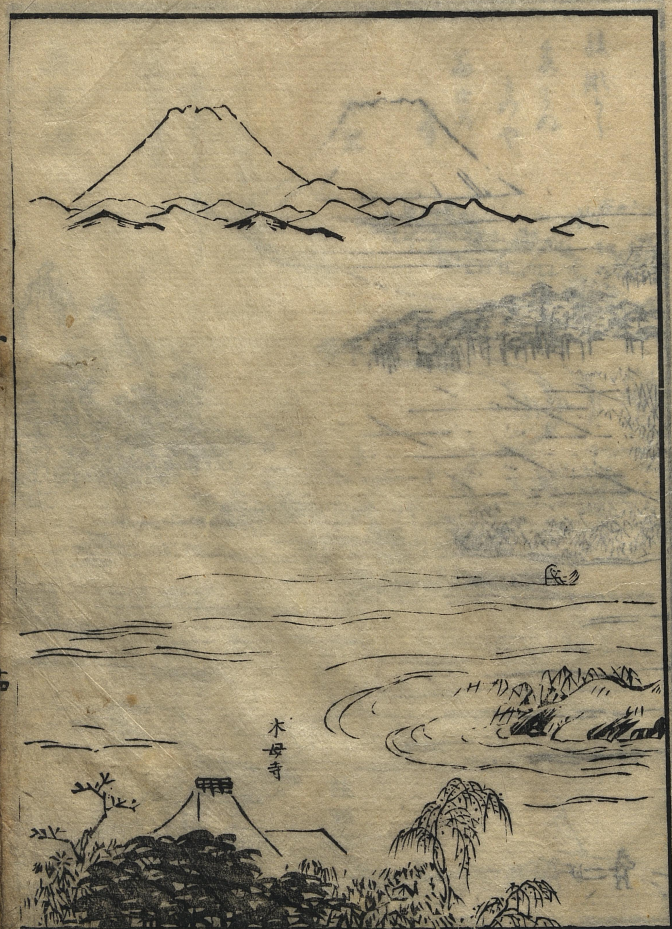
やうやの

さくらん

黙守庵

宗朝

関屋里



木母寺



飛鳥山

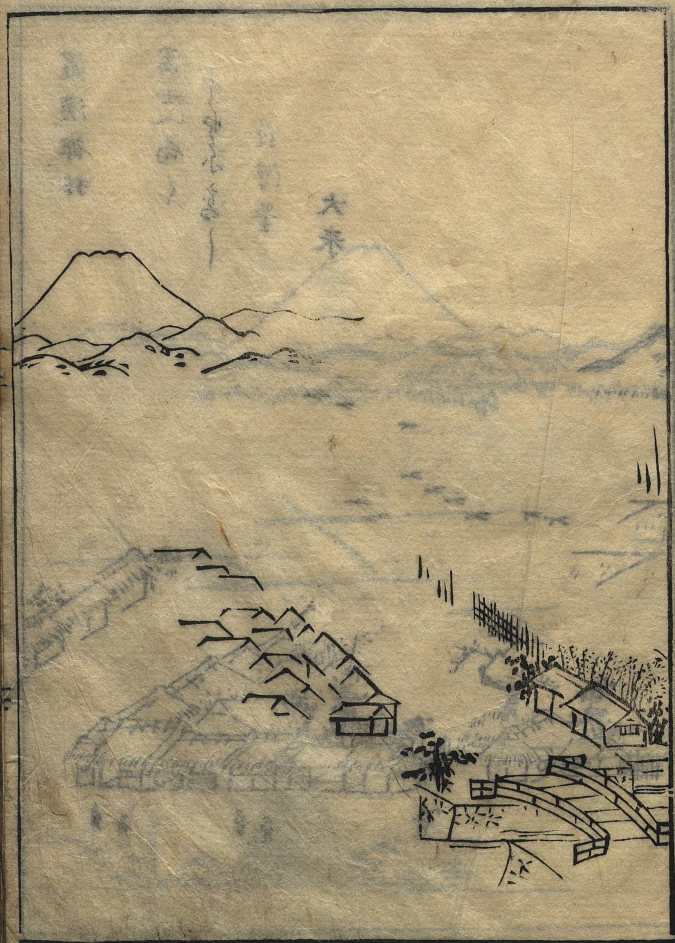
花のち

お寺も深

富全

義松

十連
みじん
もや
まて
あけ



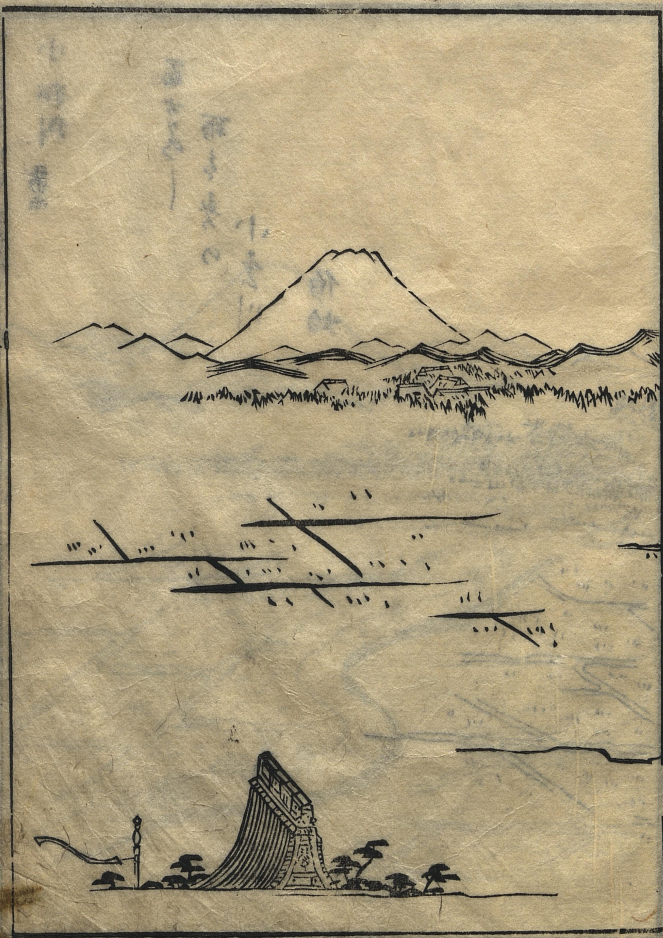
羅漢禪林

富士山向く

市街より遠く

羅漢堂

大乗

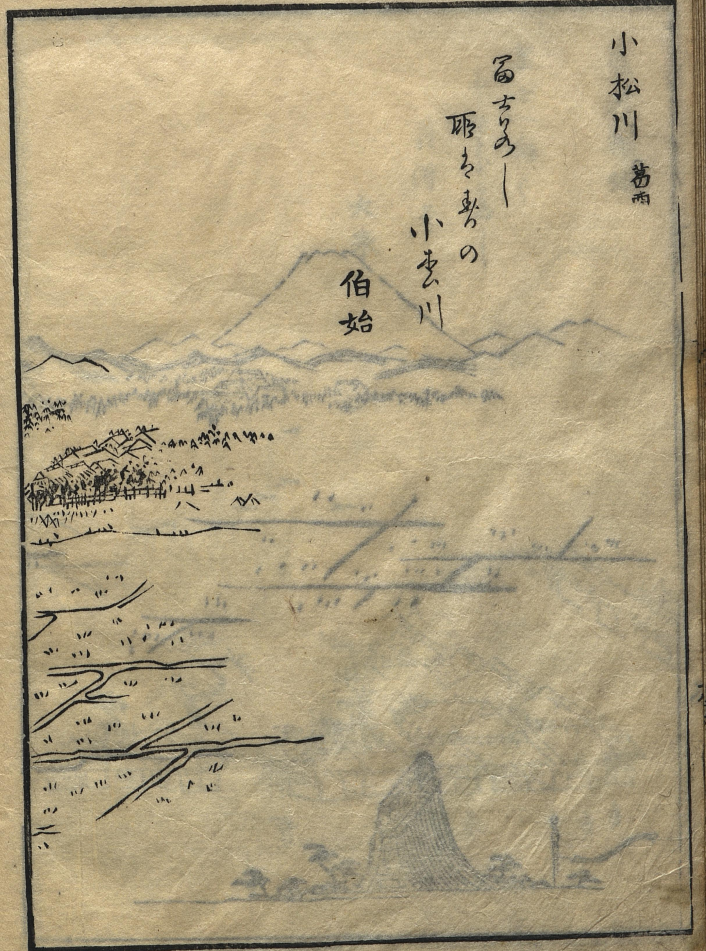


小松川 舊雨

留古りあー
暇を暮しの

小松川

伯始



松間

秀出玉芙蓉不厭隔松樹
綠葉與山光相映自成趣
駿東 堀崎春稿



富士山より水々湖の景色

湖下



富士の少や橋の下
花口

橋下

麥畑



麦の穂↓
揺るぎなく

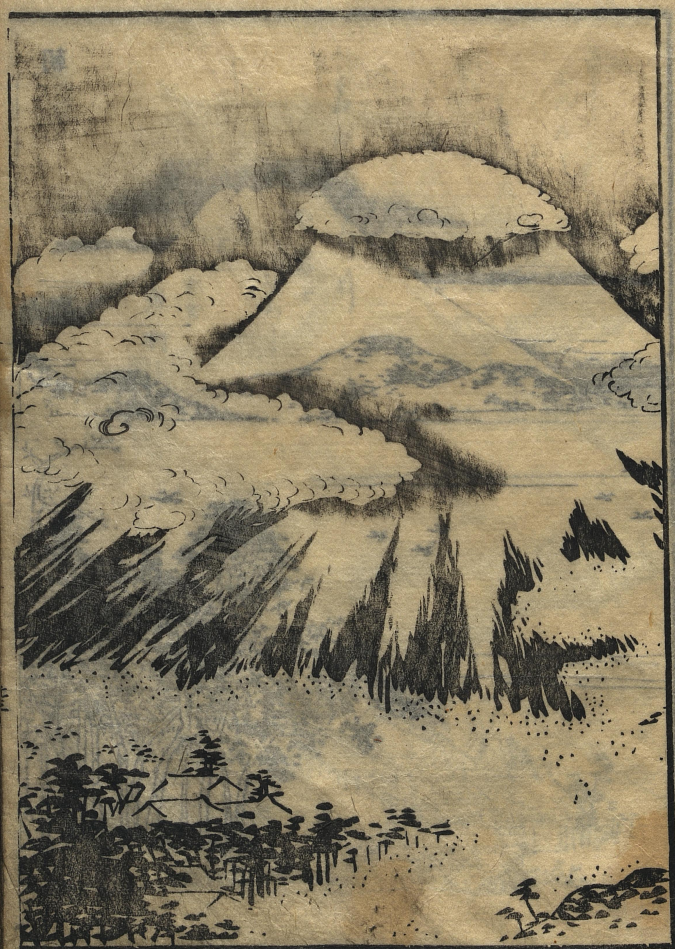
ふこの郭

上毛沼田

鹿實菴

春路





朝



富士山
里中富士

武山
耕雲舎
左村

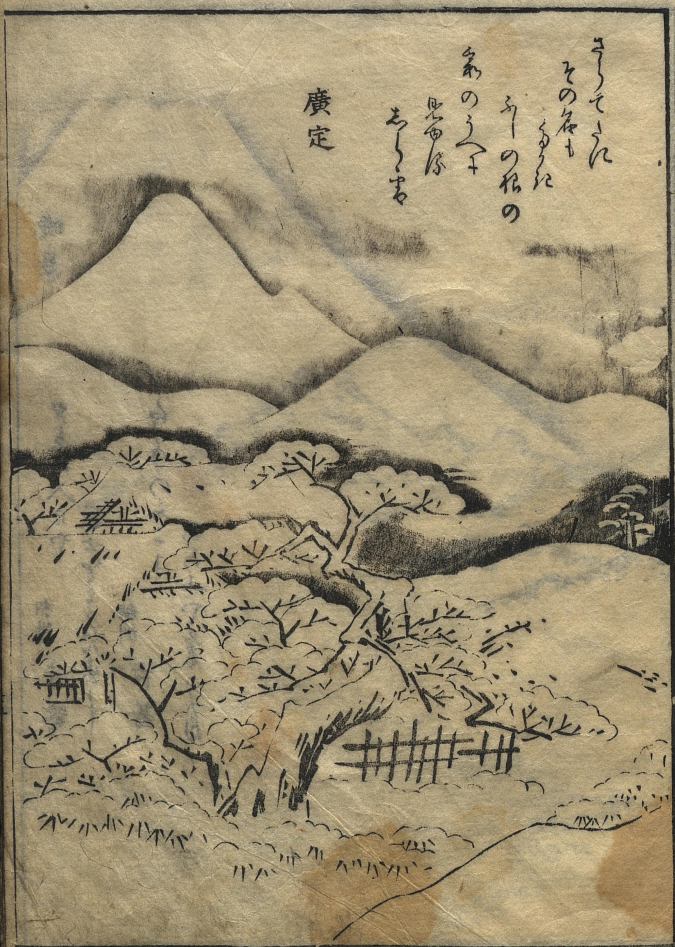


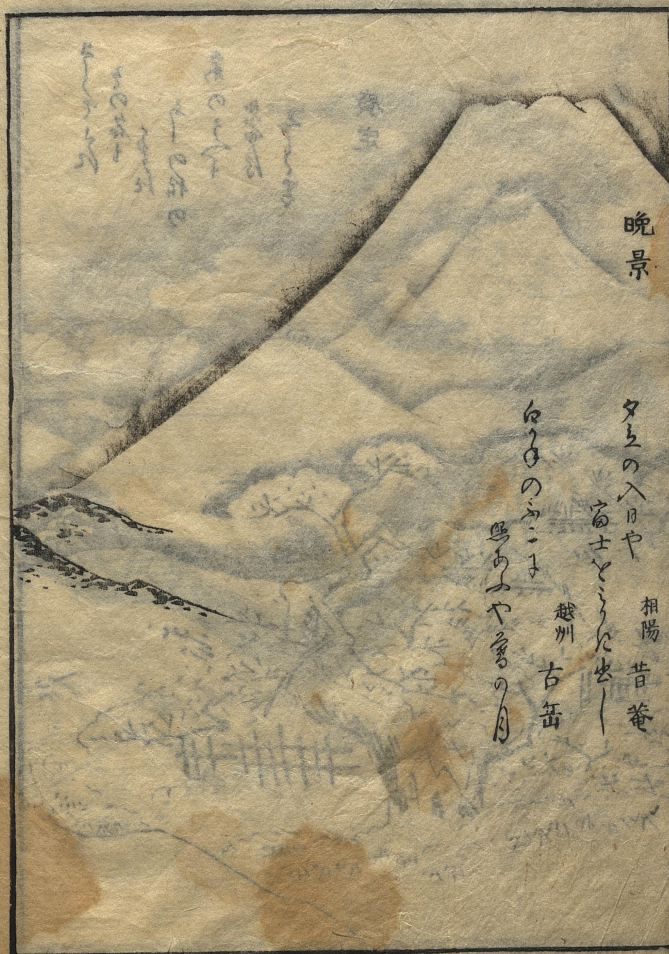
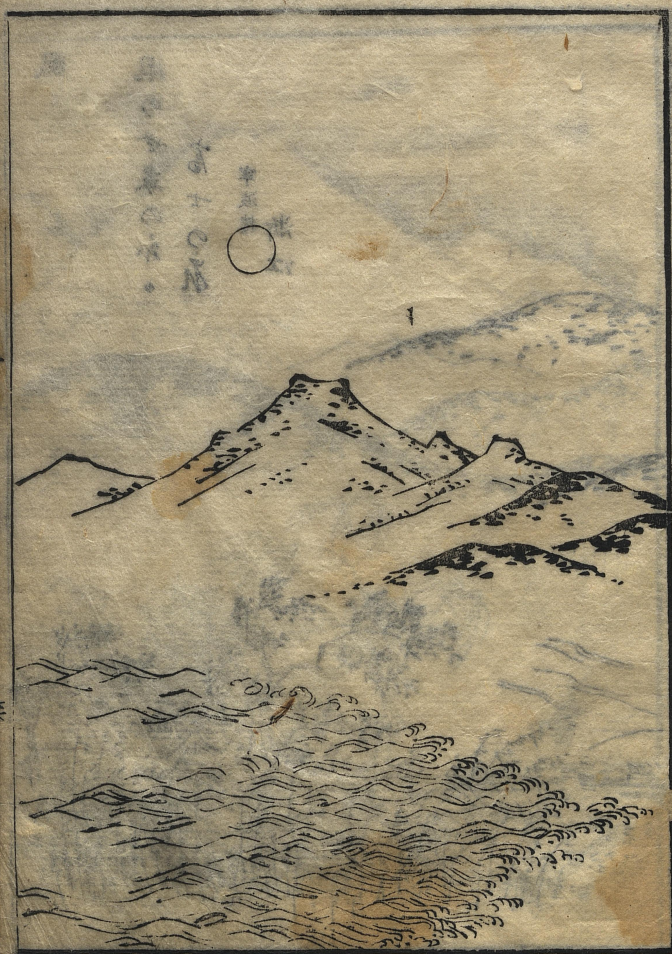
雪後



廣定

さうてふに
その名も
ふたね
ふーの松の
糸のうす
見あふ
あふする





晩景

夕日の入りや 相陽 昔菴
 富士とてな出ー
 越州 古岳
 白くのはな 馬のふや雪の月



窓中

厚く居てもいそぎの富士 再蝶

